

第5次泊村総合計画
アンケート調査結果

目次

1. アンケートの概要	
(1)アンケートの目的.....	1
(2)アンケートの実施方法.....	1
(3)回答数	1
2. アンケート結果	
(1)村民対象アンケート.....	2
(2)企業対象アンケート.....	21
(3)中学生対象アンケート.....	28
3. アンケートからの考察	33

1. アンケートの概要

(1) アンケートの目的

泊村では、「第4次総合計画」により、むらづくりを進めているが、2020年度をもって終了することから、2021年度をスタートとして、次のむらづくりのための指針となる「第5次泊村総合計画」を策定する。

計画の策定にあたり、多くの住民や企業、団体など皆さんの意見が反映できるようアンケート調査を実施した。

(2) アンケートの実施方法

泊村内の住民、企業、地域会、中学生を対象に無作為に選ばせていただき、984名にアンケート調査を郵送した。

アンケートの実施期間

2020年4月～2020年6月

(3) 回答数

村民450名、企業29社、中学生19名

2. アンケート結果

泊村の村民、中学生、企業に対し、それぞれ以下のアンケートを実施した。

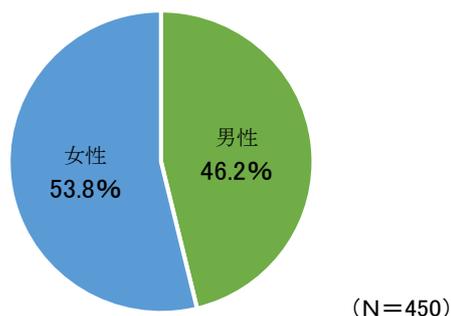
(1) 村民対象アンケート

泊村に住んでいる村民にアンケートを実施し、450名より回答して頂いた結果は以下の通りとなった。

問1. あなたの性別は何ですか？あてはまる番号に○をつけてください。

【結果】

男性が5割弱、女性が5割強という結果となった。



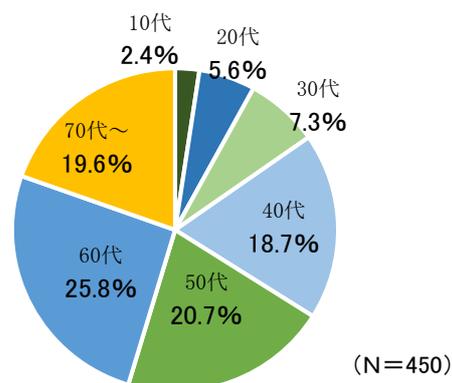
問2. あなたの性別は何ですか？あてはまる番号に○をつけてください。

【結果】

最も多い世代は「60代」で3割弱であった。

次いで、「50代」が約2割、「70代～」、「40代」は2割弱という結果となった。

10代、20代、30代はいずれも1割弱となった。



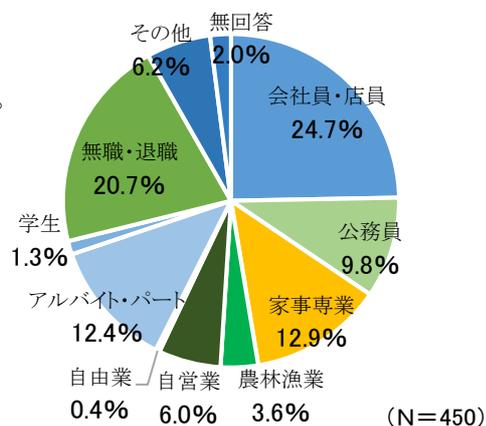
問3. あなたの職業は何ですか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。(パートタイマーを含む)

【結果】

最も多い職業の「会社員・店員」は3割弱であった。

次いで、「無職・退職」と回答した方が2割強、

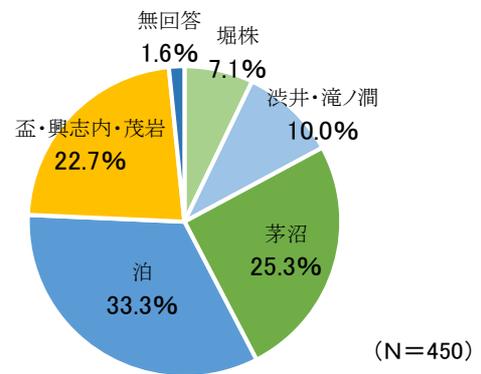
「家事専業」が1割強という結果となった。



問4. あなたの住まいはどちらですか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

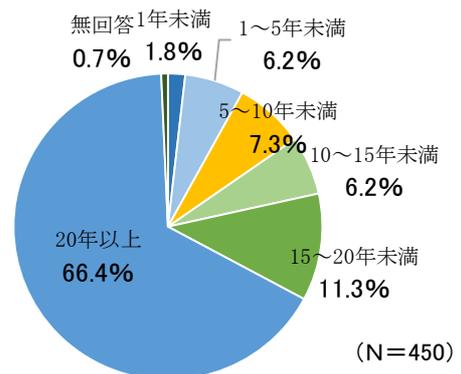
「泊」と回答した方が約3割と最も多い結果となった。
次いで、「茅沼」が3割弱、「盃・興志内・茂岩」が2割強という結果となった。



問5. 泊村に居住されてどのくらい経ちましたか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

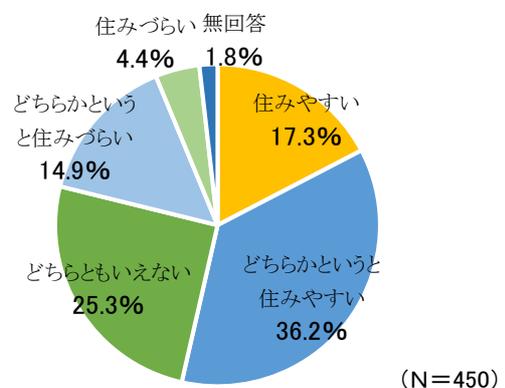
「20年以上」と回答した方が7割弱と半数以上を占める結果となった。次いで「15～20年未満」が1割強という結果となった。



問6. 泊村の住み心地について、どう感じていますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

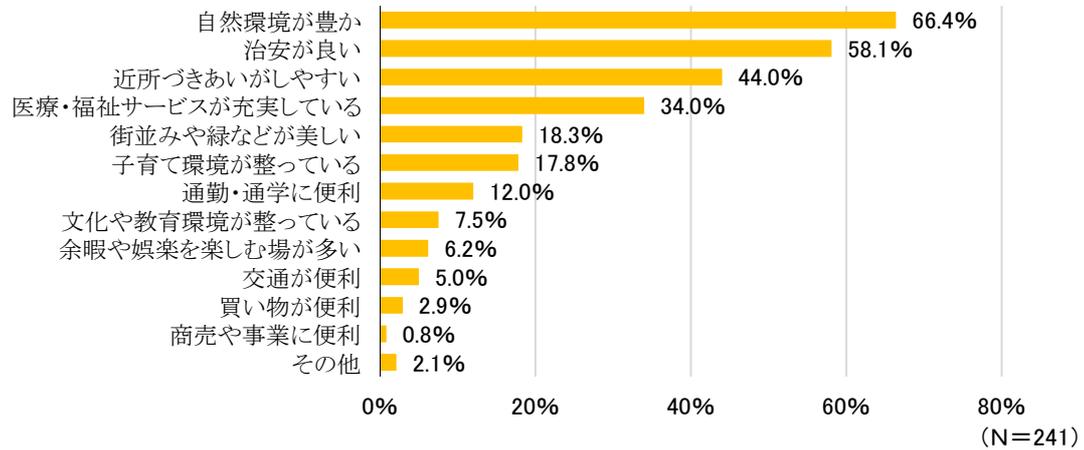
「どちらかという住みやすい」と回答した方が4割弱という結果となった。次いで「どちらともいえない」が3割弱で、「住みやすい」が2割弱という結果となった。



問6-1. 泊村を「住みやすい」「どちらかという住みやすい」と答えた理由は何ですか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

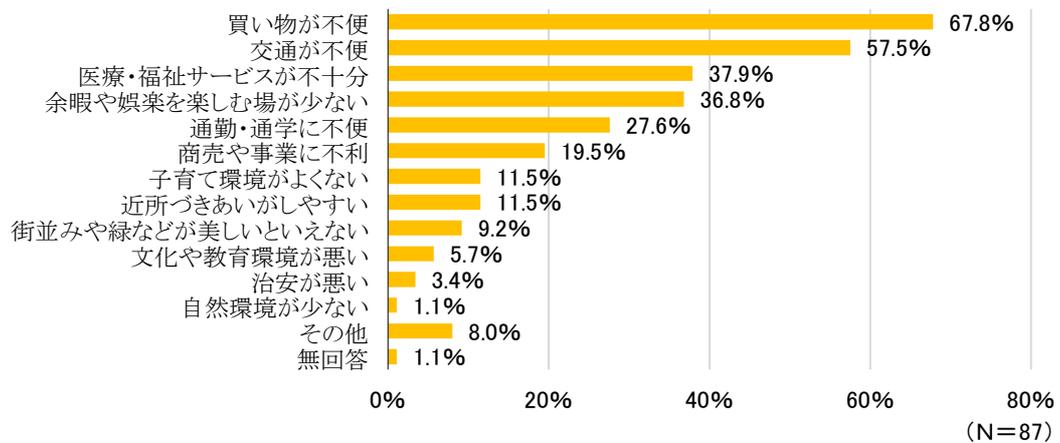
「自然環境が豊か」と回答した方が7割弱という結果となった。次いで「治安が良い」が6割弱で、「近所づきあいがしやすい」は4割強という結果となった。



問6-2. 泊村を「住みにくい」「どちらかという住みにくい」と答えた理由は何ですか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

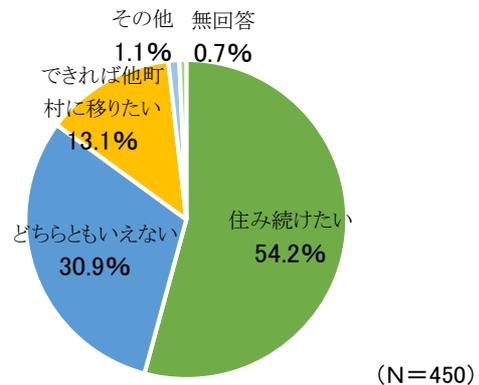
「買い物が不便」と回答した方が7割弱で最も多い理由となった。次いで「交通が不便」が6割弱、「医療・福祉サービスが不十分」や「余暇や娯楽を楽しむ場が少ない」は4割弱という結果となった。



問7. これからも泊村に住み続けたいと思いますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

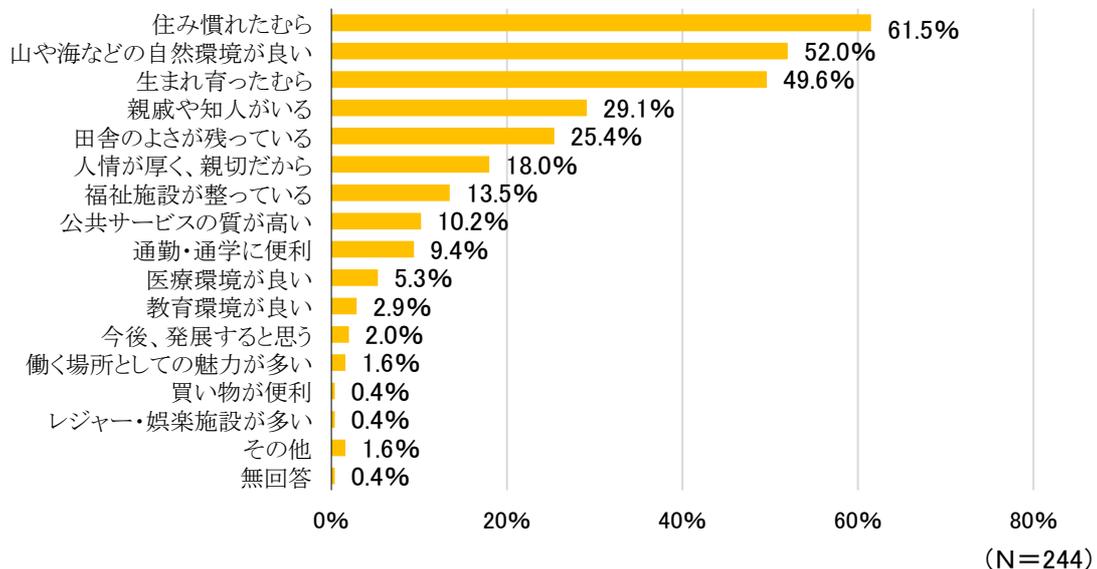
「住み続けたい」と回答した方が5割強で最も多く、次いで、「どちらともいえない」が約3割という結果となった。



問7-1. 「住み続けたい」と答えた理由は何ですか？あてはまる番号に3つ○をつけてください。

【結果】

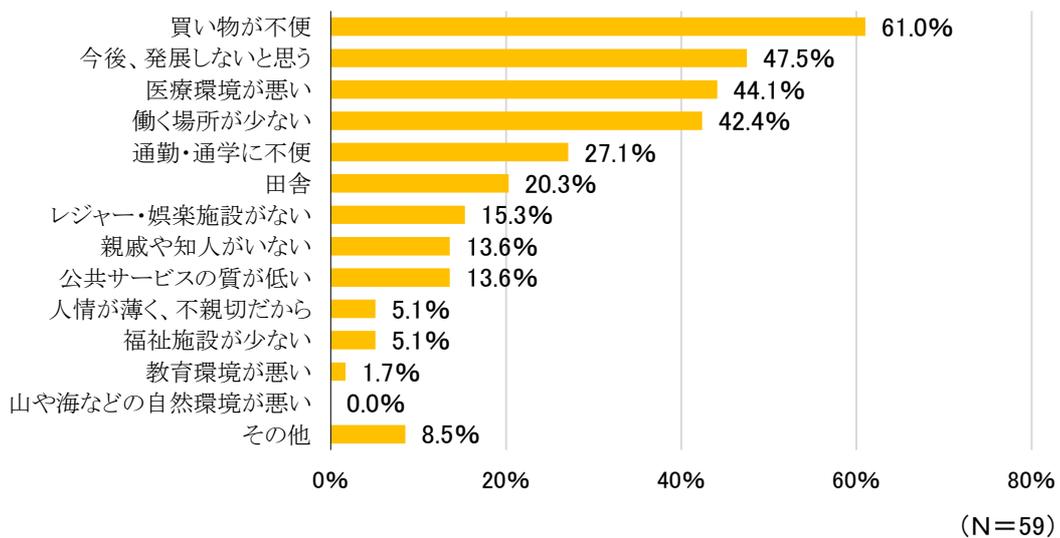
「住み慣れたむら」と回答した方が約6割と最も多い結果となった。次いで、「山や海などの自然環境が良い」が5割強、「生まれ育ったむら」が約5割という結果となった。



問7-2. 「できれば他町村に移りたい」と答えた理由は何ですか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

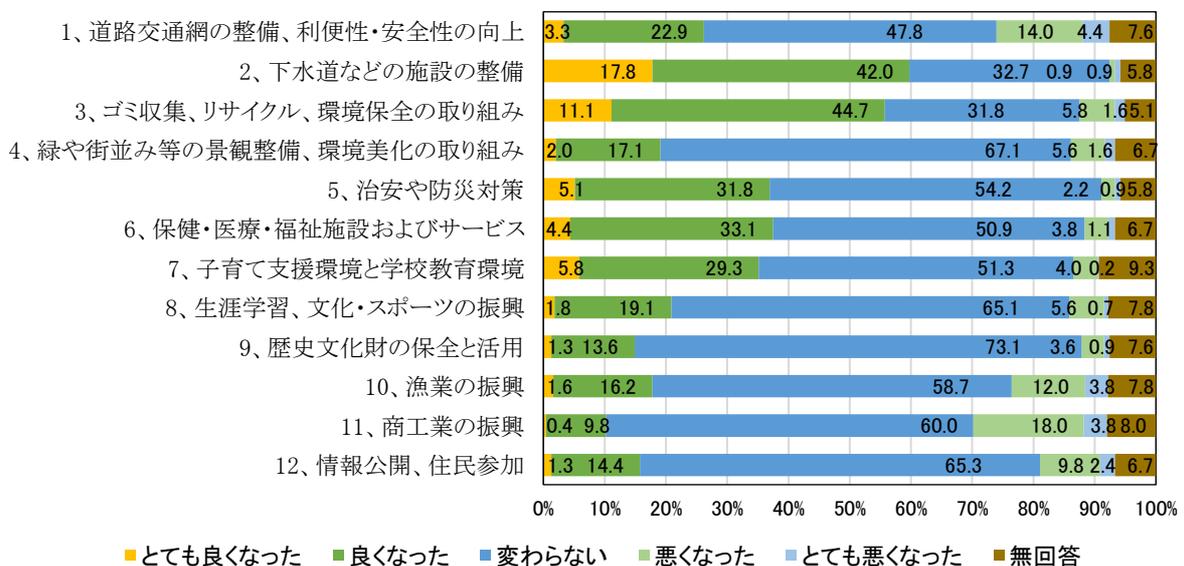
「買い物が不便」と回答した方が約6割と最も多い結果となった。次いで、「今後、発展しないと思う」、「医療環境が悪い」、「働く場所が少ない」が約4割という結果となった。



問8. 泊村の「これまでのむらづくり」について、表内のそれぞれ該当する番号に〇をつけてください。

【結果】

全体を見ると、「変わらない」と回答している項目が多かったが、「下水道などの施設の整備」や「ゴミ収集、リサイクル、環境保全の取り組み」に関しては「よくなった」と回答している割合が多い結果となった。

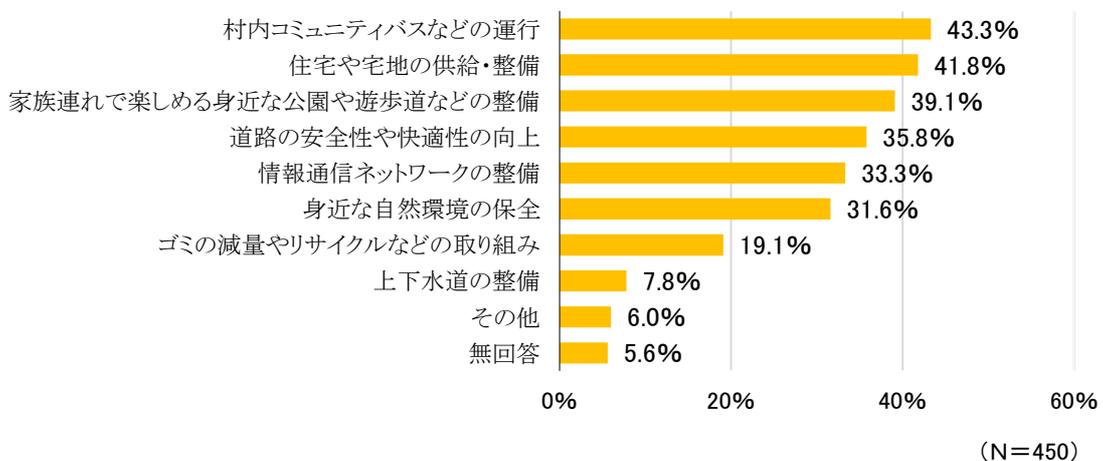


問9. これからのむらの基盤整備として何が必要だと思いますか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

「村内のコミュニティバスなどの運行」および「住宅や宅地の供給・整備」が4割強と多い結果となった。次いで、「家族連れで楽しめる身近な公園や遊歩道などの整備」が4割弱という結果となった。

年代別に見ると、10代、20代、30代、40代は「家族連れで楽しめる身近な公園や遊歩道などの整備」という回答が共通して多く、50代、60代、70代以上は「村内のコミュニティバスなどの運行」が多い結果となった。



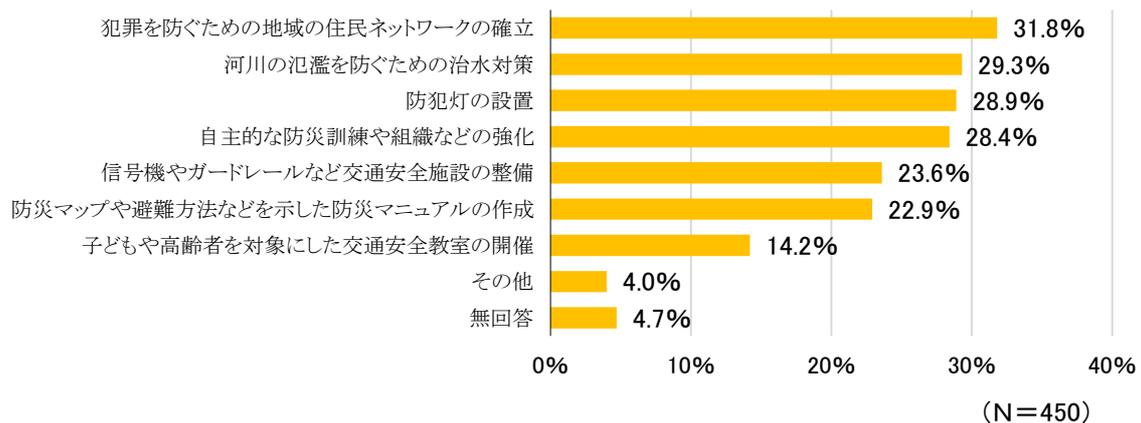
世代別の傾向

	全体	上段(実数)										無回答
		道路の安全性や快適性の向上	村内コミュニティバスなどの運行	ゴミの減量やリサイクル	家族連れで楽しめる身近な公園や遊歩道などの整備	住宅や宅地の供給・整備	上下水道の整備	身近な自然環境の保全	情報通信ネットワーク	その他		
全体	450	161	195	86	176	188	35	142	150	27	25	
	100.0	35.8	43.3	19.1	39.1	41.8	7.8	31.6	33.3	6.0	5.6	
年代	10代	11	3	4	2	6	3	1	7	5	2	-
		100.0	27.3	36.4	18.2	54.5	27.3	9.1	63.6	45.5	18.2	-
	20代	25	8	6	2	19	20	1	7	9	1	-
		100.0	32.0	24.0	8.0	76.0	80.0	4.0	28.0	36.0	4.0	-
	30代	33	11	10	9	20	17	1	7	14	1	-
		100.0	33.3	30.3	27.3	60.6	51.5	3.0	21.2	42.4	3.0	-
	40代	84	33	30	10	37	48	5	23	33	7	-
	100.0	39.3	35.7	11.9	44.0	57.1	6.0	27.4	39.3	8.3	-	
50代	93	41	43	14	31	35	6	26	37	4	8	
	100.0	44.1	46.2	15.1	33.3	37.6	6.5	28.0	39.8	4.3	8.6	
60代	116	42	56	22	39	40	5	34	34	7	9	
	100.0	36.2	48.3	19.0	33.6	34.5	4.3	29.3	29.3	6.0	7.8	
70代~	88	23	46	27	24	25	16	38	18	5	8	
	100.0	26.1	52.3	30.7	27.3	28.4	18.2	43.2	20.5	5.7	9.1	

問10. 安心や安全に関わる施策として、特に必要と思われることは何ですか？あてはまる番号に2つ〇をつけてください。

【結果】

「犯罪を防ぐための地域の住民ネットワークの確立」が3割強と最も多い結果となった。他にも「河川の氾濫を防ぐための治水対策」や「防犯灯の設置」が3割近い結果となった。

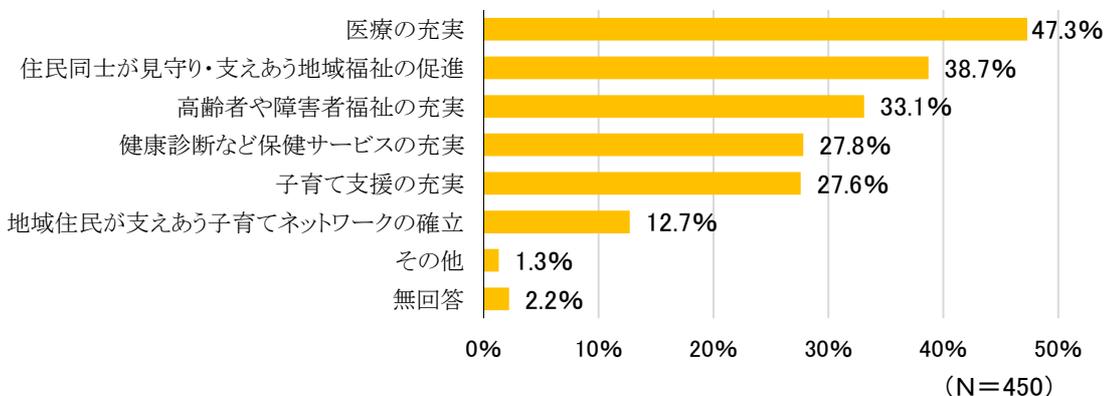


問11. 健康と福祉のむらづくりのために、特に充実するべきと思われることは何ですか？あてはまる番号に2つ〇をつけてください。

【結果】

「医療の充実」が5割弱と最も多い結果となった。他に「住民同士が見守り・支えあう地域福祉の促進」が4割弱と多い結果となった。

年代別に見ると、10代、20代、30代、40代は「子育て支援の充実」という回答が多く、50代、70代以上は、「高齢者や障がい者福祉の充実」という回答が多い結果となった。



世代別の傾向

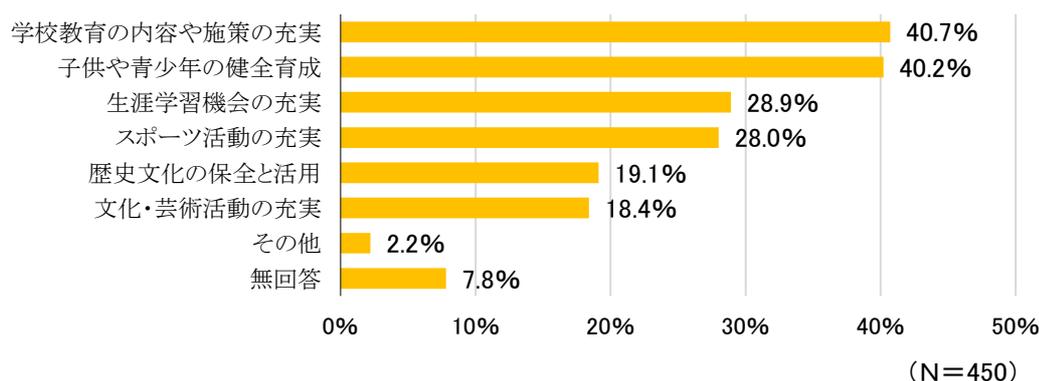
上段(実数)
下段(割合)

		全体	健康診断などの充実	子育て支援の充実	ワークの確立	地域住民が支えあ	高齢者や障害者福祉の充実	福祉の促進	住民同士が見守り支えあう地域	医療の充実	その他	無回答
全体		450	125	124	57	149	174	213	6	10		
		100.0	27.8	27.6	12.7	33.1	38.7	47.3	1.3	2.2		
年代	10代	11	3	6	2	4	3	4	-	-		
		100.0	27.3	54.5	18.2	36.4	27.3	36.4	-	-		
	20代	25	7	19	6	6	7	8	-	-		
		100.0	28.0	76.0	24.0	24.0	28.0	32.0	-	-		
	30代	33	7	18	8	9	13	10	-	-		
		100.0	21.2	54.5	24.2	27.3	39.4	30.3	-	-		
	40代	84	24	33	11	18	22	50	1	1		
		100.0	28.6	39.3	13.1	21.4	26.2	59.5	1.2	1.2		
50代	93	25	22	11	38	30	51	1	1			
	100.0	26.9	23.7	11.8	40.9	32.3	54.8	1.1	1.1			
60代	116	38	20	11	34	50	57	2	6			
	100.0	32.8	17.2	9.5	29.3	43.1	49.1	1.7	5.2			
70代～	88	21	6	8	40	49	33	2	2			
	100.0	23.9	6.8	9.1	45.5	55.7	37.5	2.3	2.3			

問12. 教育や生涯学習に携わる施策として、特に充実するべきと思われることは何ですか？あてはまる番号に2つ○をつけてください。

【結果】

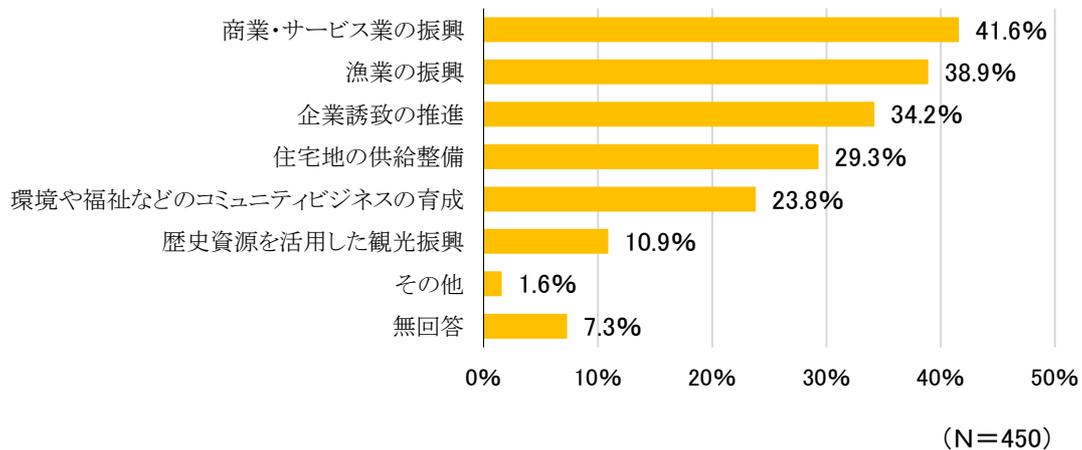
「学校教育の内容や施策の充実」が約4割で最も多い結果となった。僅差で、「子供や青少年の健全育成」についても多い結果となった。



問13. 産業振興やむらの活性化を図るために、特に必要と思われることは何ですか？あてはまる番号に2つ〇をつけてください。

【結果】

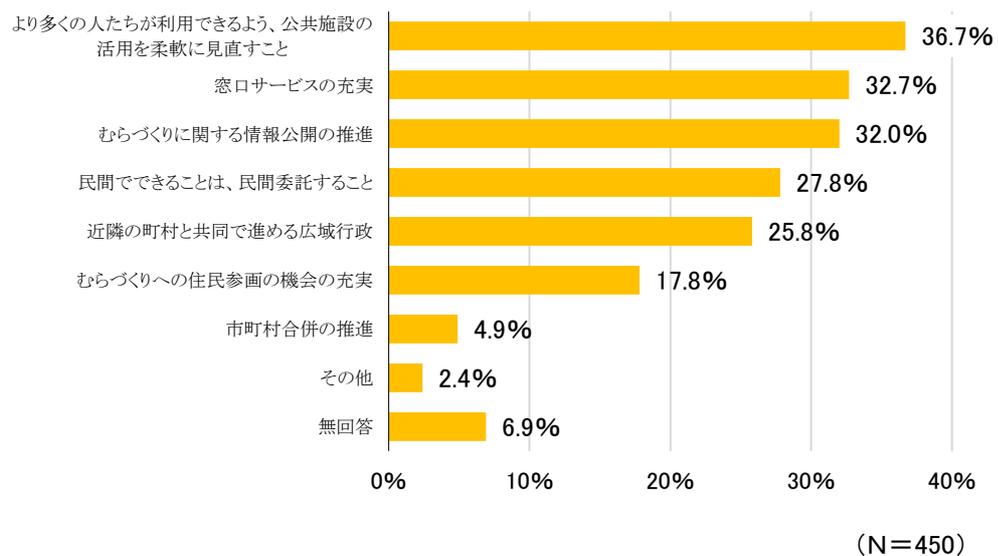
「商業・サービス業の振興」が4割強と最も多い結果となった。次いで「漁業の振興」が約4割で、「企業誘致の推進」や「住宅地の供給整備」も約3割という結果となった。



問14. 行財政改革を推進するために、特に必要と思われることは何ですか？あてはまる番号に2つ〇をつけてください。

【結果】

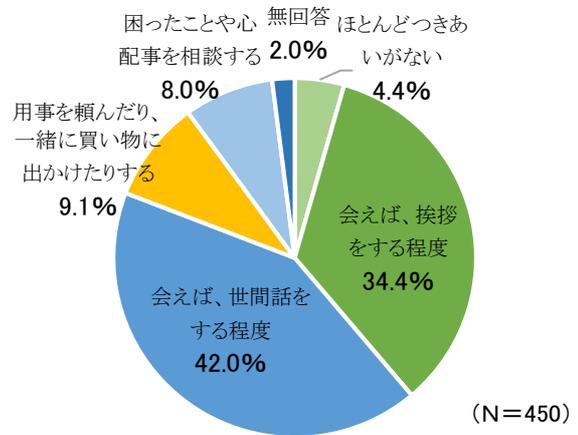
「より多くの人たちが利用できるよう、公共施設の活用を柔軟に見直すこと」が4割弱と最も多い結果となった。次いで「窓口サービスの充実」、「むらづくりに関する情報公開の推進」が約3割であった。



問15. あなたは、近所の人との程度のつきあいがありますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

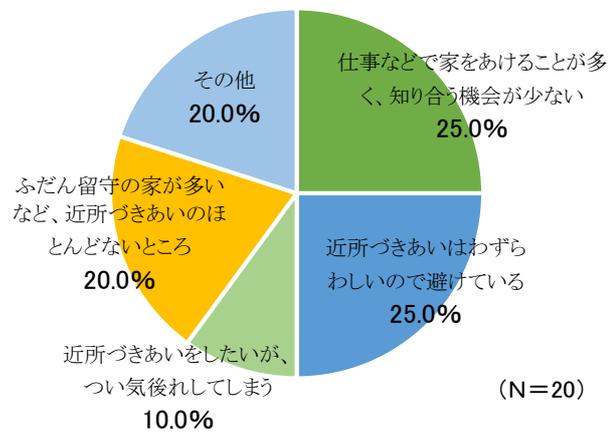
「会えば、世間話をする程度」が最も多く、約4割という結果となった。次いで、「会えば、挨拶をする程度」が3割強という結果となった。



問15-1. 「ほとんど付き合いがない」と答えた理由は何ですか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

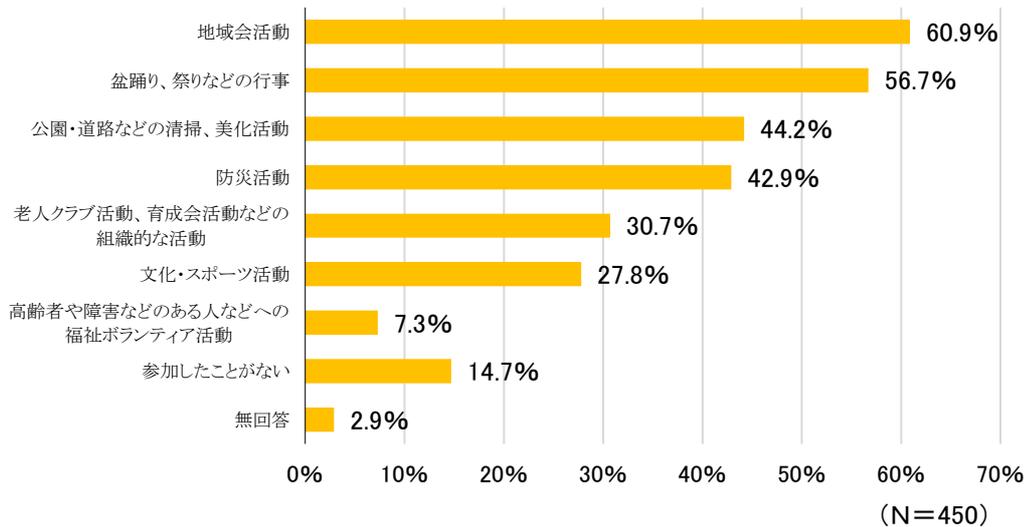
「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会が少ない」、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が同数で3割弱という結果となった。



問16. 地域の活動や行事などへの参加について、あなたは次のようなことに参加したことがありますか？
 あてはまる番号にすべて○をつけてください。

【結果】

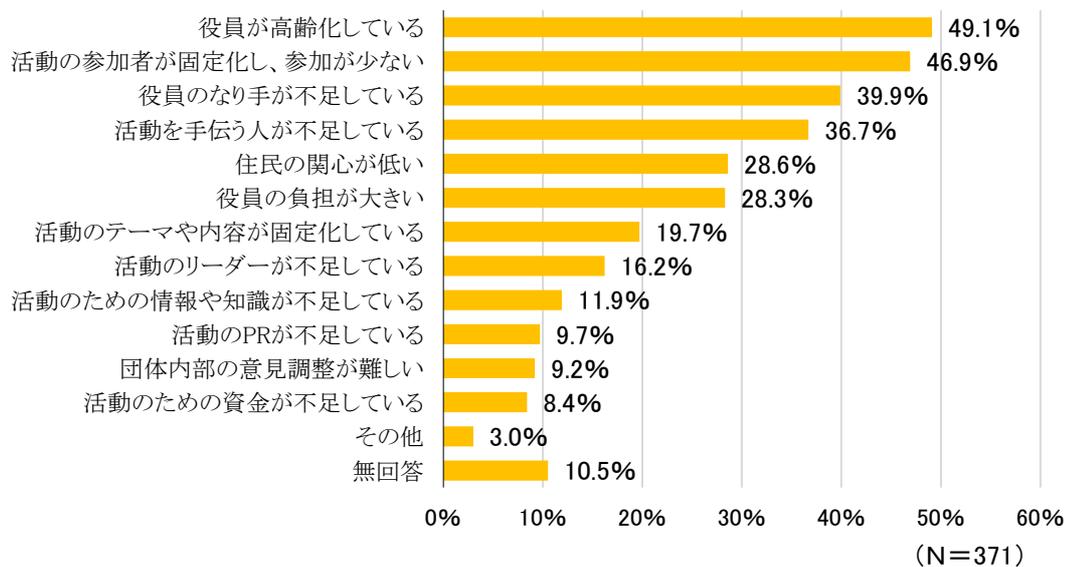
「地域会活動」と回答した方が最も多く、約6割という結果となった。次いで、「盆踊り、祭りなどの行事」と回答した方が6割弱という結果であった。



問16-1. 地域の活動や行事などに参加したことがある方に、おたずねします。あなたが参加されている地域の団体・グループなどの課題はどんなことですか？

【結果】

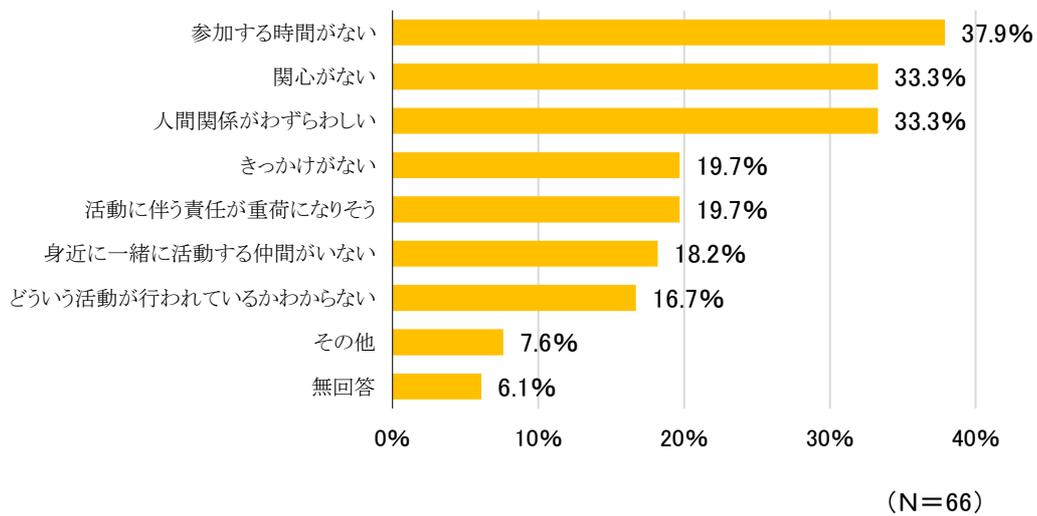
「役員が高齢化している」と回答した方が最も多く、約5割という結果となった。次いで、「活動の参加者が固定化し、参加が少ない」が5割弱という結果となった。



問16-2. 地域の活動や行事などに参加したことがない方に、おたずねします。これまで参加したことがない理由は何ですか？あてはまる番号にすべて○をつけてください。

【結果】

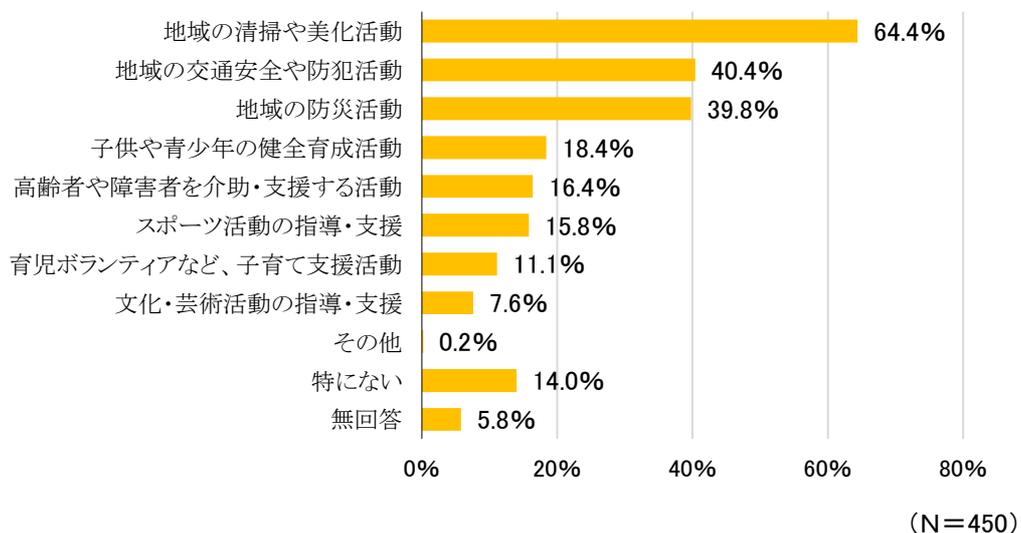
「参加する時間がない」が最も多く、約4割という結果となった。次いで、「関心がない」、「人間関係がわずらわしい」が3割強という結果となった。



問17 あなたが『何かに参加する』とすれば、どのようなことができますか？あてはまる番号に3つ○をつけてください。

【結果】

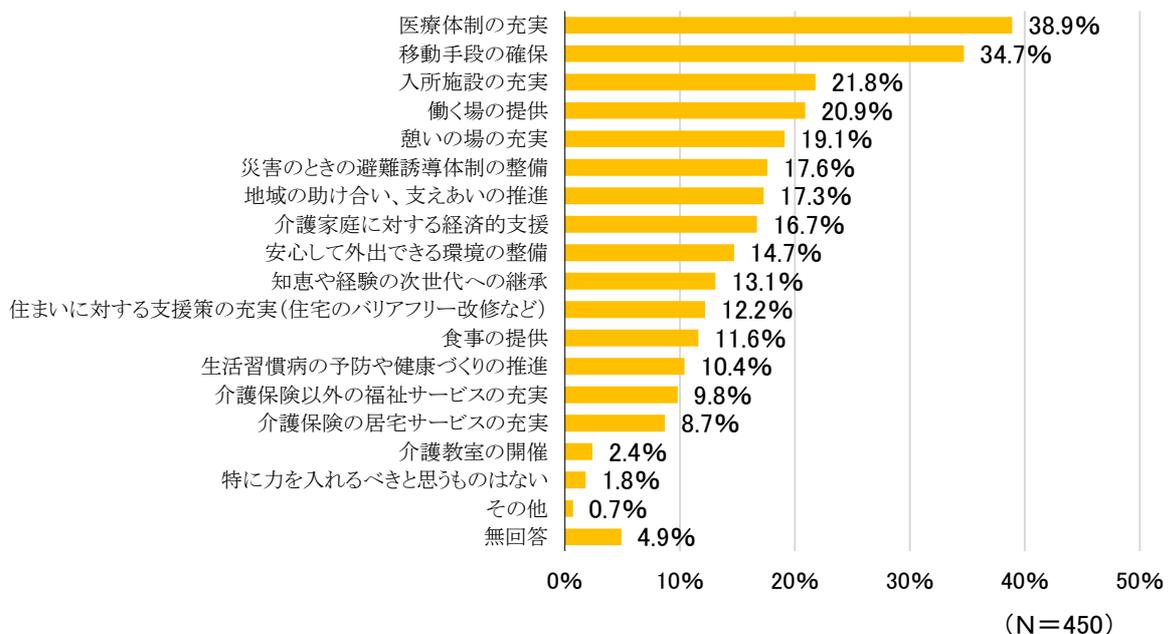
「地域の清掃や美化活動」が最も多く、6割強という結果となった。次いで、「地域の交通安全や防犯活動」、「地域の防災活動」が約4割という結果となった。



問18 高齢者にかかわる施策のうち、今後、特に力をいれるべきだと思うものは何ですか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

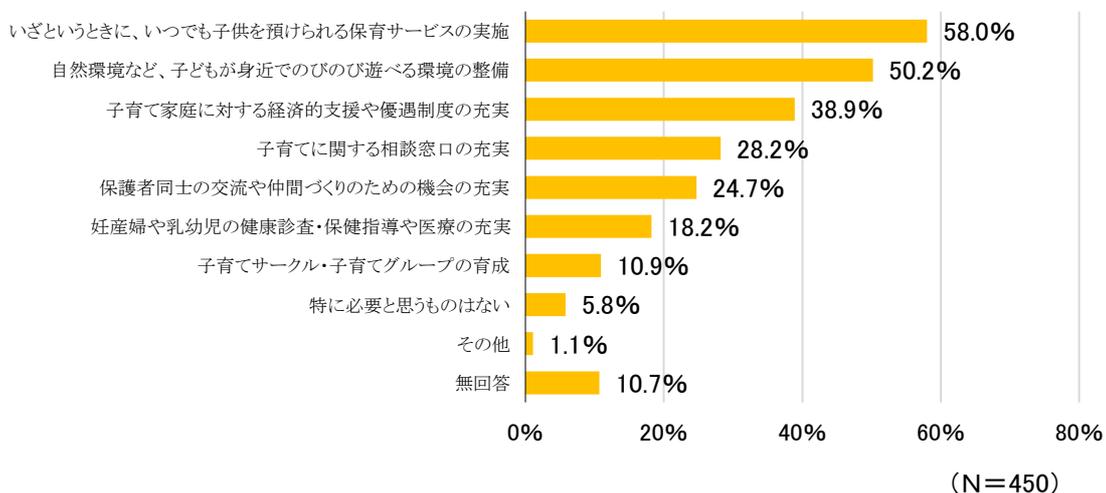
「医療体制の充実」が最も多く、約4割という結果となった。次いで、「移動手段の確保」が4割弱という結果となった。他にも、「入所施設の充実」や「働く場の提供」などの意見も上位にあがった。



問19 子育てを支援するために、今後どのようなことが必要だと思いますか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

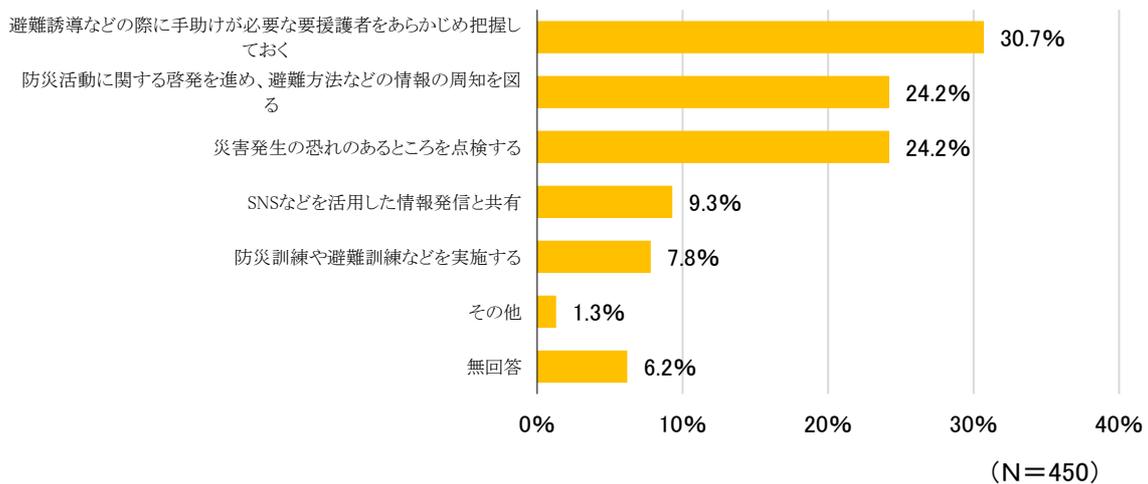
「いざというときに、いつでも子供を預けられる保育サービスの実施」が最も多く、6割弱という結果となった。次いで、「自然環境など、子供が身近でのびのび遊べる環境の整備」が5割強という結果となった。



問20 地域で力をいれるべき防災活動はなんですか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

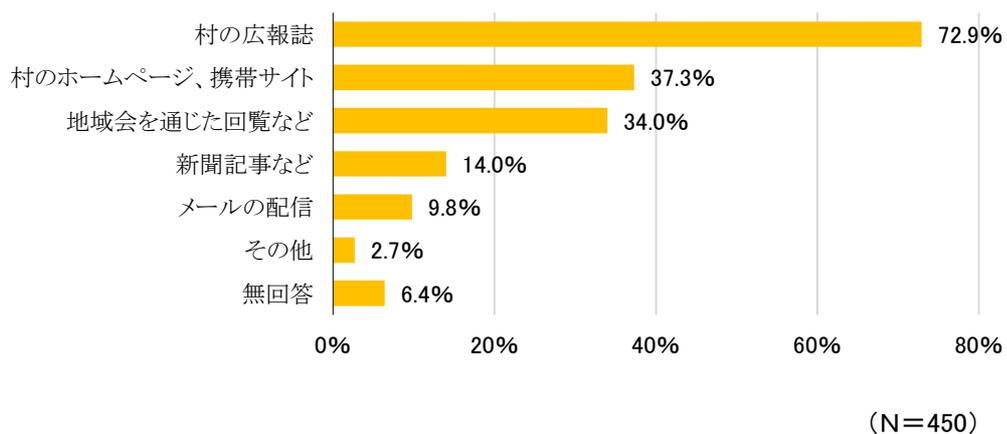
「避難誘導などの際に手助けが必要な要援護者をあらかじめ把握しておく」が最も多く、約3割という結果となった。次いで、「防災活動に関する啓発を進め、避難方法などの情報の周知を図る」、「災害発生の恐れのあるところを点検する」が2割強という結果となった。



問21 むらづくりや地域に関する情報を伝える方法として、何を充実(重視)すべきだと思いますか？あてはまる番号に2つ○をつけてください。

【結果】

「村の広報誌」が最も多く、約7割という結果となった。次いで、「村のホームページ、携帯サイト」が3割強、「地域会を通じた回覧など」が3割強という結果となった。

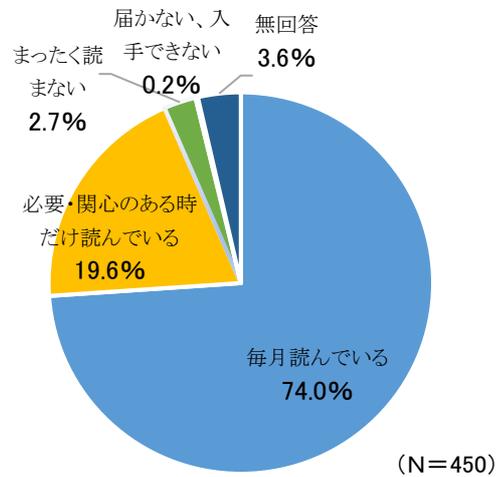


問22 村では、毎月1回発行の広報誌と、ホームページで村の情報をお伝えしています。これらをご覧になる頻度について、あてはまる番号を選んでそれぞれ1つ〇をつけてください。

① 広報誌を見る頻度

【結果】

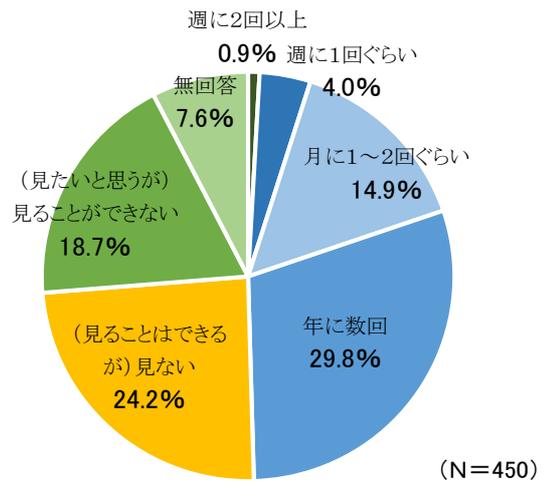
「毎月読んでいる」が最も多く、約7割という結果となった。次いで、「必要・関心のあるときだけ読んでいる」が約2割という結果となった。



② 泊村のホームページを見る頻度

【結果】

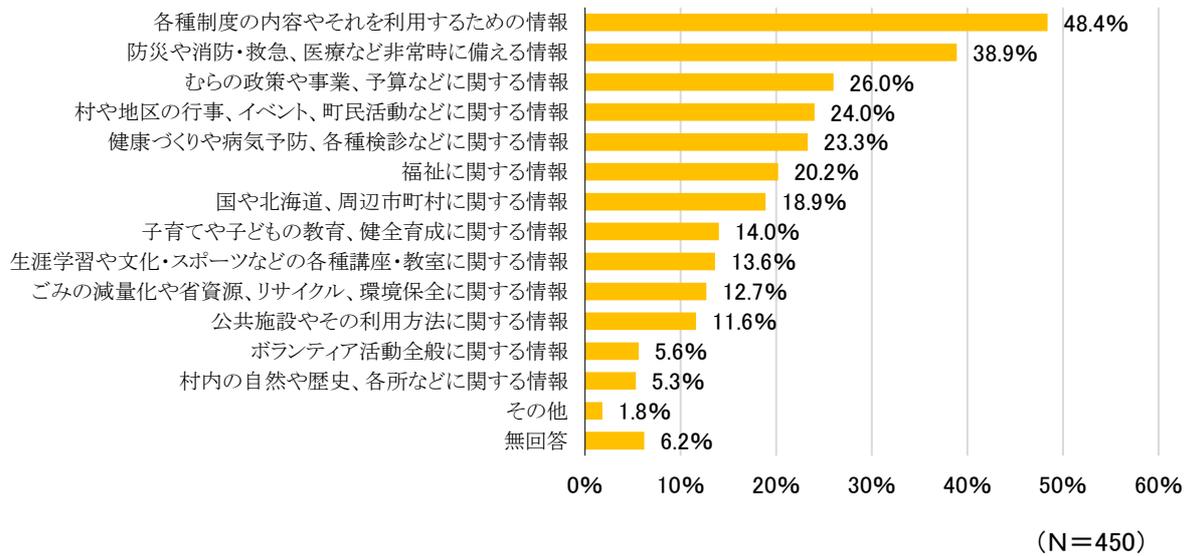
「年に数回」が約3割と最も多い結果となった。次いで、「(見ることにはできるが)見ない」が2割強、「(見たいと思うが)見ることができない」という結果となった。



問23 むらづくりや地域に関する情報として、どのような内容を望みますか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

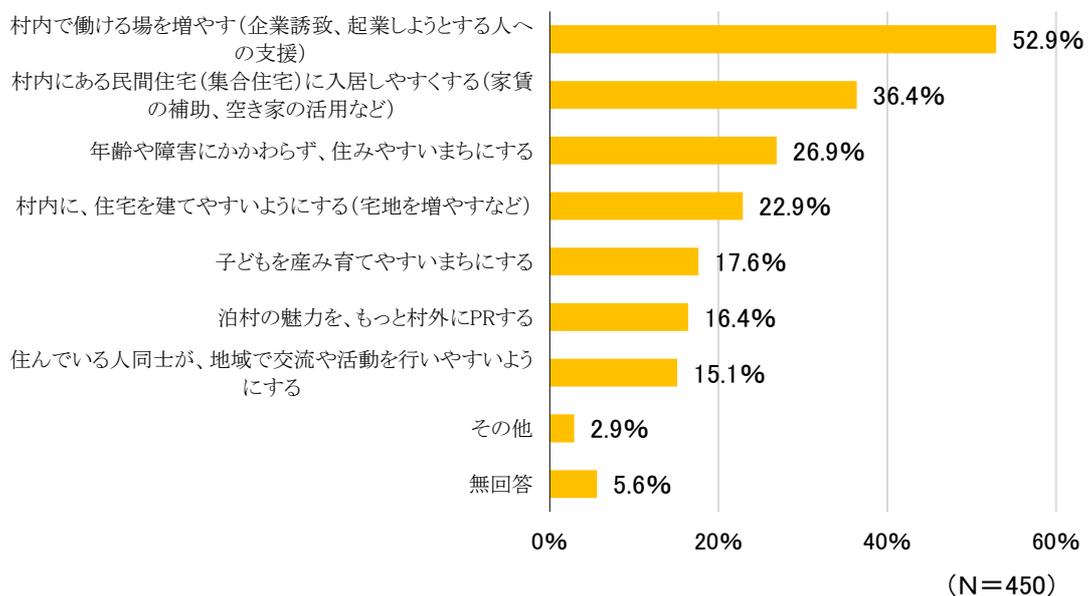
「各種制度の内容やそれを利用するための情報」が最も多く、約5割という結果となった。次いで、「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」が約4割という結果となった。



問24 村では「住んでよかった泊村」をめざし、今後、さらに移住・定住を促進するために、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に2つ〇をつけてください。

【結果】

「村内で働ける場を増やす(企業誘致、起業しようとする人への支援)」が最も多く、約5割という結果となった。次いで、「村内にある民間住宅(集合住宅)に入居しやすくする(家賃の補助、空き家の活用など)」が4割弱という結果となった。



問 25 将来にわたり持続可能なむらづくり(行政運営)を進めるために、大胆な見直しも必要です。泊村の今の制度や施設、事業など、今後、廃止してもよいと思うものがあれば、具体的にご記入ください。

【結果】

下記に自由記入の意見をまとめた。

主な意見
集会所が多いので、各地1ヶ所ずつあれば良い。
群来祭りはどれだけの利益があるのかわからないので、やめたほうがいい。
アイスセンターのスケート場。
高齢者へのお弁当配布は、もう少し高くていい。
女性職員の制服。時代の流れとして、ジェンダーフリー、価値観の多様化、その尊重があるため。
全て続けて欲しい。
賃貸住宅の家賃補助。
村のバスがもっと頻回に回ってほしい。
茅沼の橋が1本に減り、不便を感じている。
赤字の事業に対する補助は、民間委託にて解消出来るものが多く、補助金ありきの事業は検討すべき。
子供が野外で集える場所がほしい。そして安全な遊具なども設置してほしい。
漁業に対する補助。
旧地域会の補助。
高齢者への助成金。
パークゴルフ場の運営見直し。
役場職員の再雇用。保育士の役場職員化。
泊小学校を中学校と統合する。
村営の温泉。温泉券。
保育園の預かり時間をのばす(8:00 からだと遅いので早くして欲しい)。
廃屋の解体の援助。
村議の定員を減らす。
官民による村づくり、審議機関の設置など。
村民誰でもいつでも集まって話が出来場所を、村内各所で運営出来るような仕組みを作り上げる。
福祉サービスや助成制度が、高齢者向けの物が多く、若い人、子育て世帯、働く人世帯向けが少ない。
プレミアム商品券を3割に戻した方がよい。
何でもタダから相応の負担、自立する住民の創出。
育成会。
医療体制の改善。泊村に生活拠点を置いて村民の診療にあたってくれる医師の体制にすべき。

問 26 今後のむらづくりに対し①新たな取り組み、②重点的に行うべき取り組み、③アイデアやご提案、④その他、がありましたらご記入ください。

【結果】

下記に自由記入の意見をまとめた。

主な意見 ①新たな取り組み
役場に行けるように村内バスの運行。
通勤・通学のバスの運行。
企業誘致のために使用できる土地を広げる。宅地を作る。
各種助成金(保育料・給食費の全額補助、成人のお祝い金、村内に転居する方への支援金、高齢者の低所得者援助、高校進学者への支援、出産の助成金など)
宿泊施設がないので、日帰りできる温泉施設をつくる。
各地域でコミュニティ化を図り、公営住宅の集約や解体等の実施。
DAYサービスで、筋力アップのスポーツジムやマージャン等の活力のある魅力ある場の創出。
病児保育。
釣りに来る人にゴミを持って帰るよう厳しく伝える手段をつくる。
魚貝や水産加工品等の直売所の設置。
人がもっと来てくれるように、宿泊施設や食堂をつくる。
温泉の地熱で花や野菜を育てて販売する。収穫した野菜でピクルスや缶詰を作る。
教育に力を入れる。
空き家や歴史的建築物を利用したイベント・カフェスペースの運営
近隣の町村と共同で進める広域行政。
豊かな自然を生かしたキャンプ場の新設。
サウナが常設された温泉施設をつくる。

主な意見 ②重点的に行うべき取り組み
公共住宅の空き室見直し。ホームページで入居者募集をする。
観光の振興。
医療体制(在宅医療や総合病院の設置、入院リハビリ施設、救急の受け入れなど)の確立
教育に力を入れる。オンライン授業の実施。
企業誘致。
ネットワーク環境の拡大。
防犯対策(防犯カメラの設置など)。
冬場の住宅周りの除雪対策
若者・女性等が活躍する場の創出。

主な意見 ③ アイディアやご提案

もいわ荘跡地の有効利用。
専門性のある職員を重点的に採用する。
福祉バスを有料にし、村内で使用できるようにしてほしい。
年中購入できる土産屋と商品の開発。
泊村に行きたいと思ってもらえるような魅力ある場所(公園・飲食店やカフェ)をつくる。情報は SNS で発信。
退職した役場職員の地域参加。
トマリンクでボッチャができるなど、老人が利用できるようにしてほしい。
ふるさと納税の促進。
防災訓練は、お年寄りの対策として、村民同士で連携していく必要がある。
村外からの移住者を増やすために、関係人口を増やしたほうがいい。
漁組と協議して、磯場を子どもの学習として活用。

主な意見 ④ その他

村の判断で施設を休業する場合、職員の賃金は保障したほうがいい。
共同住宅の入居条件の見直しをしてほしい。
診療所は、村民のための病院にしてほしい。総合内科医の医師が常駐してほしい。
とまりネットの再開をしてほしい。
海水浴場の整備と通年使用出来るトイレの設置をしてほしい。
水道代が高いので、安くしてほしい

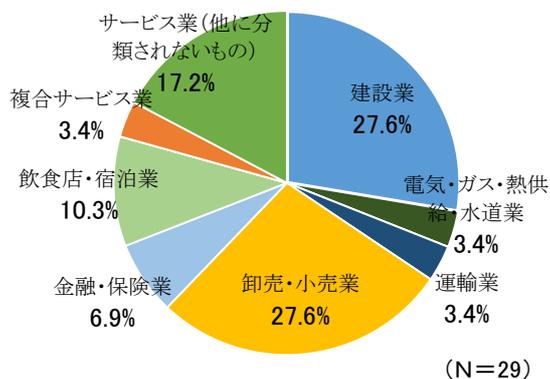
(2)企業アンケート

泊村に所在する企業にアンケートを行い、29社より回答をいただいた結果は以下の通りである。

問1. 貴社の業種は次のどれに該当しますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。複数ある場合は、現在の取扱高第1位についてお答えください。

【結果】

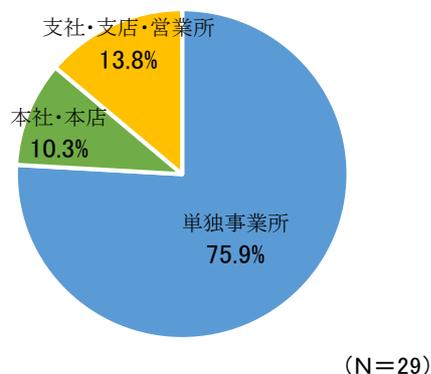
「卸売・小売業」と「建設業」はそれぞれ約3割で最も多い結果となった。次いで、「サービス業(他に分類されないもの)」が2割弱、「飲食店・宿泊業」が約1割となった。



問2. 貴社の本・支社等の区分は、次のどれに該当しますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

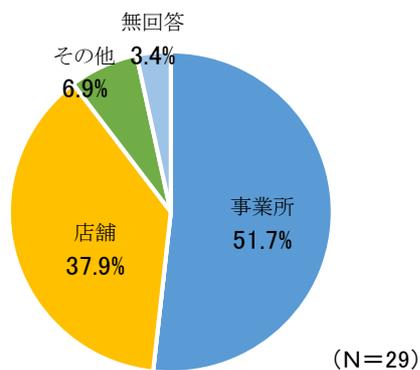
「単独事業所」と回答した方が約8割と最も多い結果となった。



問3. 貴社は次のどれに該当しますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

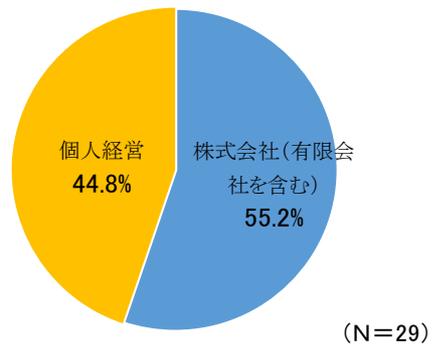
「事業所」が約5割と最も多い結果となった。



問4. 貴社の経営組織は次のどれに該当しますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

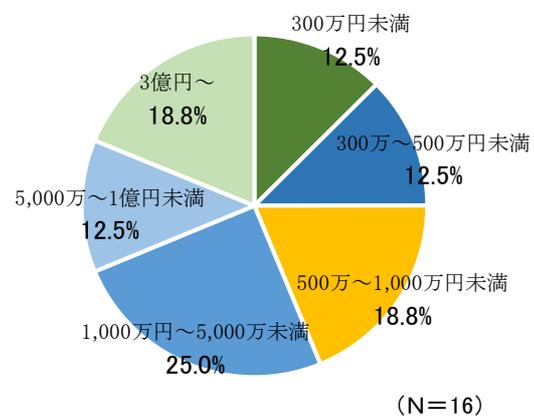
「株式会社」が6割弱、「個人経営」が5割弱という結果となった。



問4-1. 「1」と回答した方は、資本金は、おいくらですか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

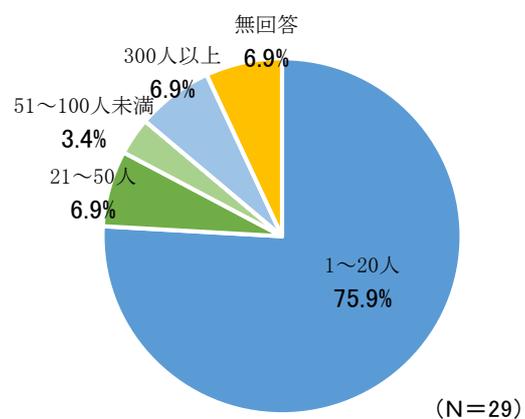
「1,000万円～5,000万未満」と回答した方が3割弱と最も多く、次いで「500万円～1,000万未満」が約2割という結果となった。



問5. 従業員数(常時雇用数)は何人ですか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

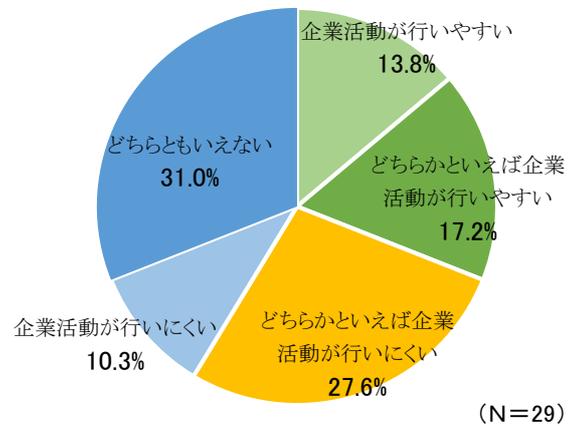
「1～20人」と回答した方が8割弱で最も多い結果となり、次いで「21～50人」、「300人以上」が1割弱という結果となった。



問6. 貴社にとって、泊村は全体として企業活動が行いやすい地域だと思いますか？あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

【結果】

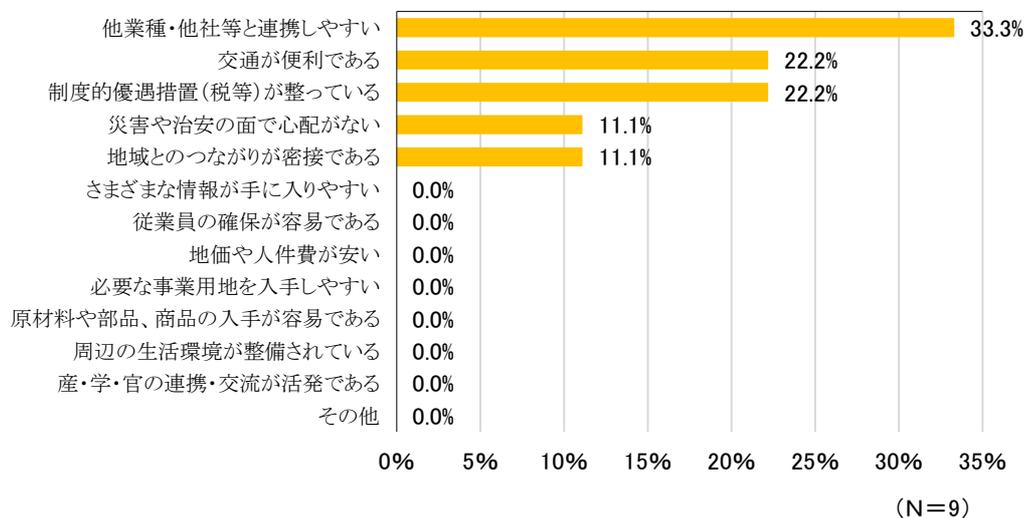
「どちらともいえない」と回答した方が約3割と最も多い結果となり、次いで「どちらかといえば企業活動が行いにくい」と回答した方が3割弱という結果となった。



問6-1. 貴社が企業活動を行いやすいのは、どのような面からですか？あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

【結果】

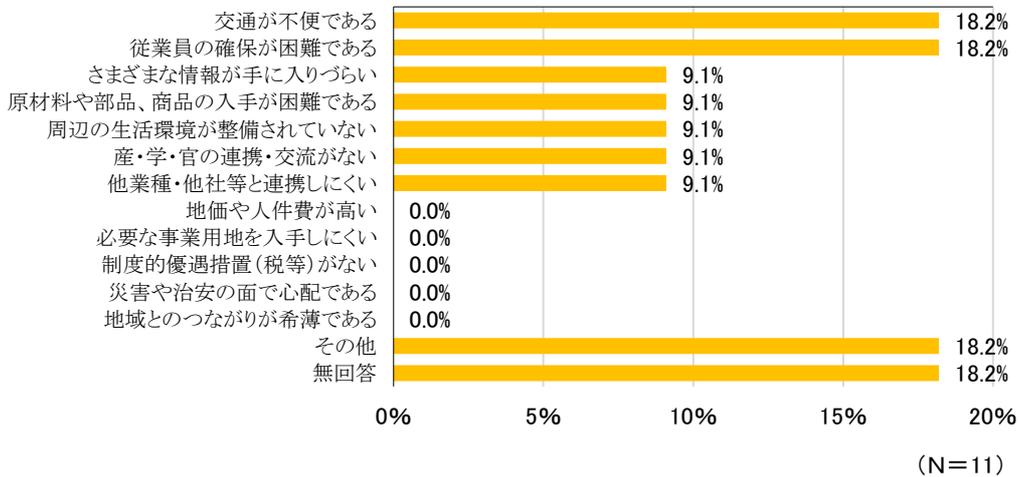
「他業種・他社等と連携しやすい」と回答した方が約3割と最も多く、「交通が便利である」「制度的優遇措置(税等)が整っている」と回答した方が約2割であった。



問6-2. 貴社が企業活動を行いきにくいのは、どのような面からですか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

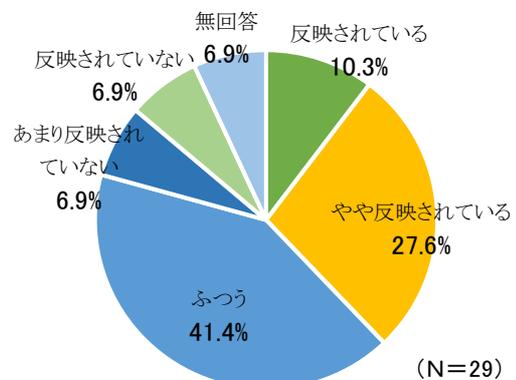
「交通が不便である」「従業員の確保が困難である」と回答した方が2割弱と最も多い結果であった。



問7. 全体的にみて、事業者や住民の意見が泊村のむらづくりに反映されていると思いますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

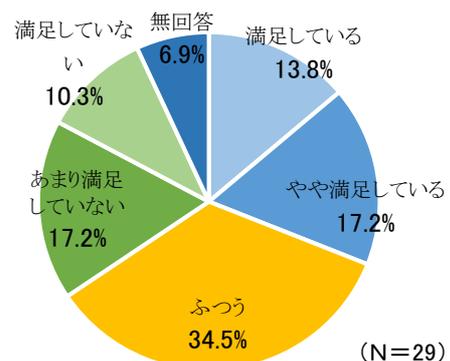
「ふつう」と回答した方が約4割と最も多い結果となった。次いで「やや反映されている」と回答した方が約3割であった。



問8. 貴社は、これまでの泊村のむらづくり全般の取り組みに満足していますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【結果】

「ふつう」と回答した方が約3割と最も多い結果となった。次いで「やや満足している」「あまり満足していない」と回答した方が同数で2割弱であった。



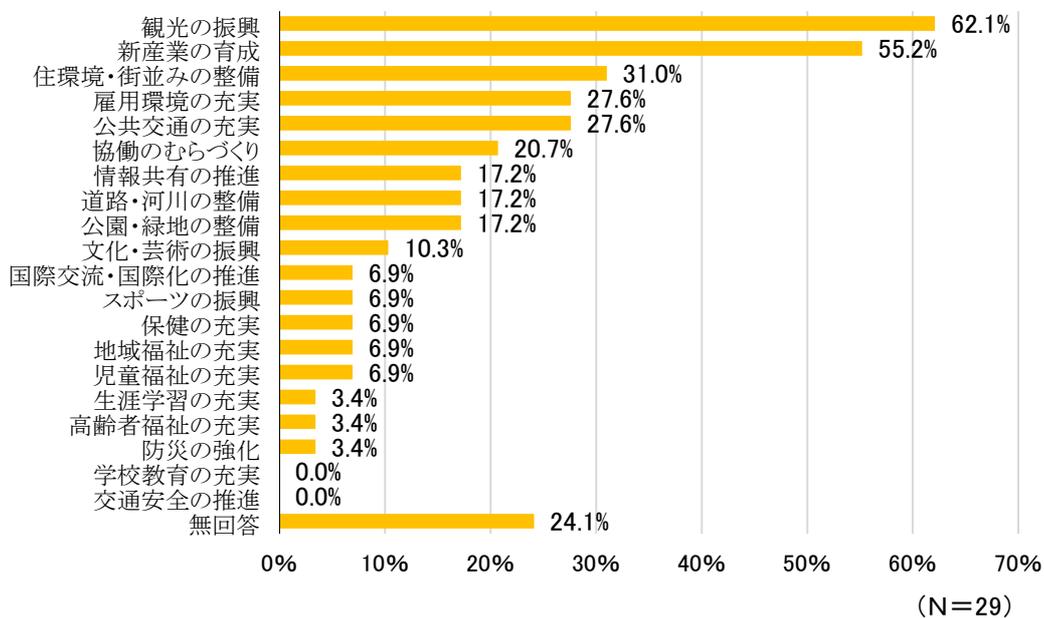
問9.貴社は、これまでの泊村のむらづくりの取り組みで、特に不満に思うもの、また今後特に重要だと思うものは何だと思えますか？以下の「施策一覧」からあてはまるものをそれぞれ5つ選んで番号をご記入ください。

【結果】

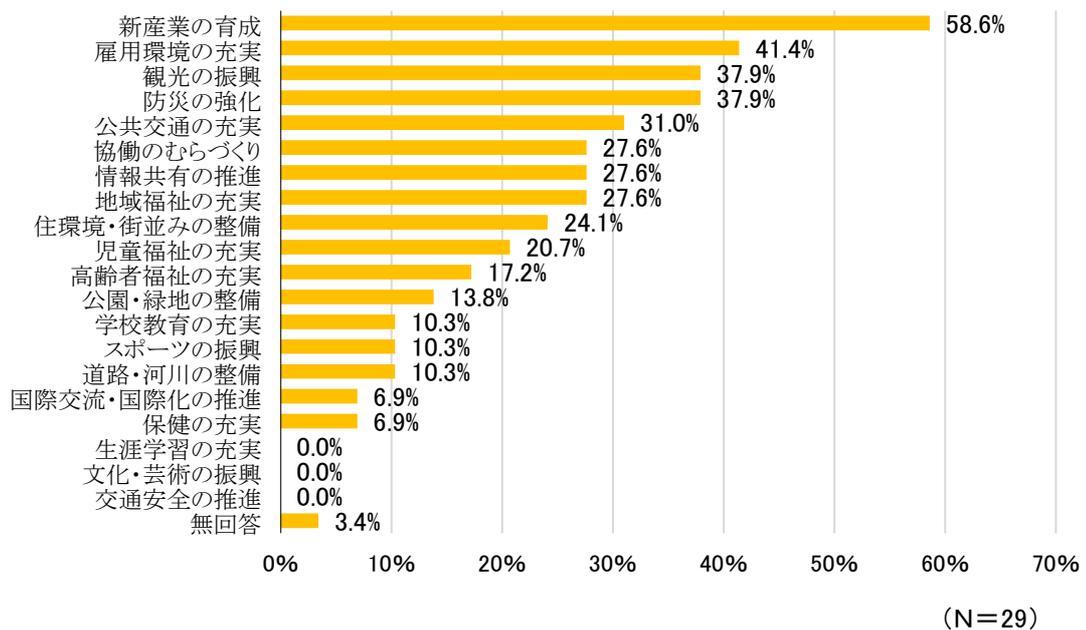
特に不満に思うものは、「観光の振興」と回答した方が最も多く約6割を占めていた。次いで「新産業の育成」が6割弱を占めている。

今後特に重要だと思うものは、「新産業の育成」が最も多く約6割を占めていた。次いで、「雇用環境の充実」「観光の振興」「防災の強化」が多い結果となった。

特に不満に思うもの



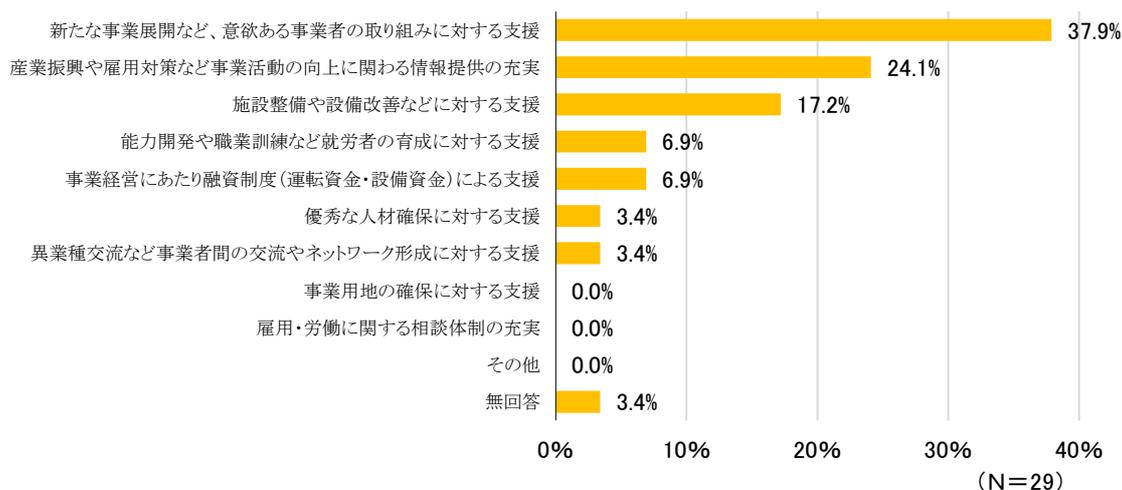
今後特に重要だと思うもの



問10. 泊村における既存産業の育成・強化のために、どのような取り組みが必要だと思いますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。(複数回答)

【結果】

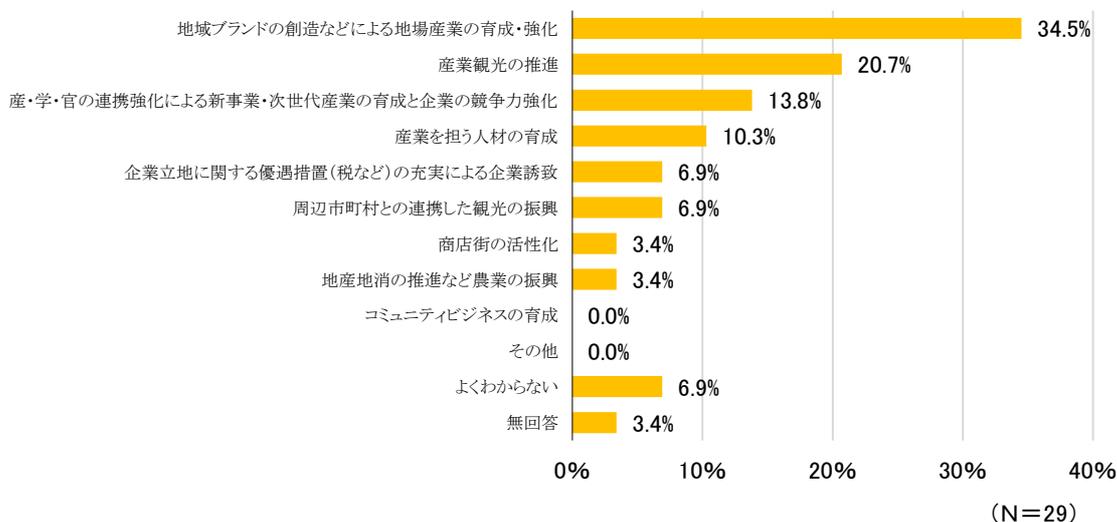
「新たな事業展開など、意欲ある事業者の取り組みに対する支援」と回答した方が最も多く約4割を占めていた。次いで「産業振興や雇用対策など事業活動の向上に関わる情報提供の充実」が2割強という結果となった。



問11. むらの活力の維持・創造の観点から、泊村の産業を振興し活性化させるために何が必要だと思いますか？あてはまる番号に1つ○をつけてください。(複数回答)

【結果】

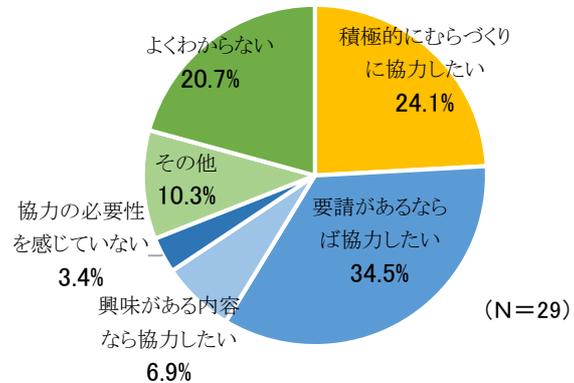
「地域ブランドの創造などによる地場産業の育成・強化」と回答した方が最も多く約3割という結果となった。次いで「産業観光の推進」と回答した方が2割強であった。



問12. 多くの自治体において、地域の日常生活に密着した分野では、地域会等との協働によるまちづくりの取り組みが行われています。地域会で今後、こうした行政と協働してむらづくりを行うことについて、どのようにお考えですか？あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

【結果】

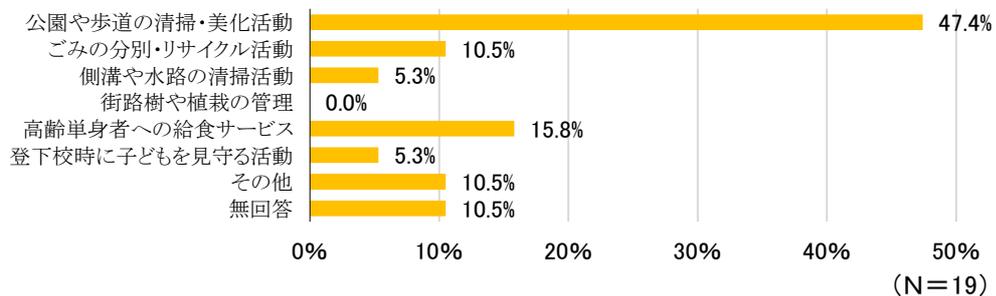
「要請があるならば協力したい」が最も多く3割強という結果となった。次いで、「積極的にむらづくりに協力したい」と回答した方が2割強であった。



問12-1. 協力したいと思う具体的な地域の活動はなんですか？あてはまる番号に1つ〇をつけてください。(複数回答に変更)

【結果】

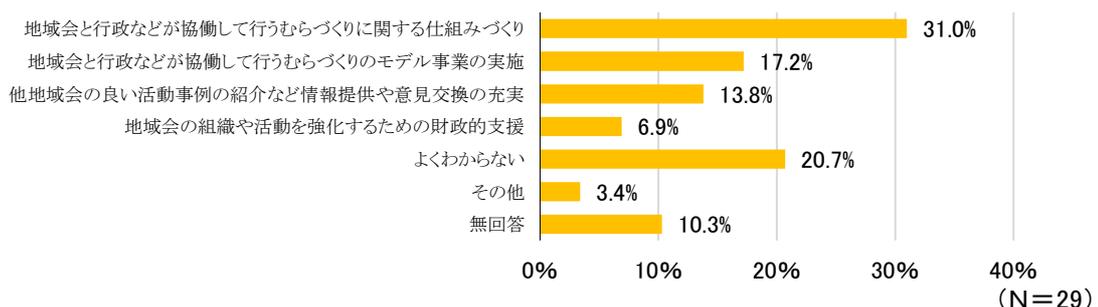
「公園や歩道の清掃・美化活動」が最も多く5割弱という結果となった。次いで「高齢単身者への給食サービス」と回答した方が2割弱であった。



問13. 今後、地域会と村が協働してむらづくりに取り組むために必要なことは何だと思えますか？あてはまる番号に1つ〇をつけてください。(複数回答)

【結果】

「地域会と行政などが協働して行うむらづくりに関する仕組みづくり」が最も多く約3割が回答していた。次いで「よくわからない」が2割強、「地域会と行政などが協働して行うむらづくりのモデル事業の実施」が2割弱であった。



(3) 中学生対象アンケート

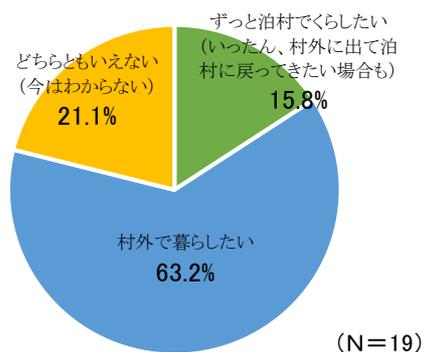
泊村立泊中学校の在學生にアンケートを行い、19名に回答していただいた結果は以下のようになった。

問1. あなたは今後も泊村で暮らしたいですか？あてはまるものに1つ○をつけてください。村外で暮らしたい場合は、暮らしたい地域に1つ○をつけてください。

【結果】

「村外で暮らしたい」と答えた方が12名と最も多い結果となった。「どちらともいえない」は4名、「ずっと泊村で暮らしたい」は3名と低い結果となった。

選択肢	人数	割合
全体	19	100
ずっと泊村でくらしたい (いったん、村外に出て泊村に戻ってきたい場合も)	3	15.8
村外で暮らしたい	12	63.2
どちらともいえない(今はわからない)	4	21.1

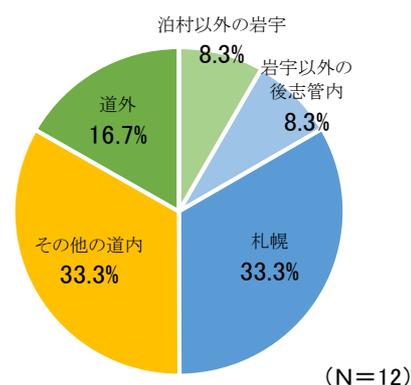


問1-2. 「村外で暮らしたい」を選んだ人にお聞きします。暮らしたい地域はどこですか？あてはまるものに○をつけてください。

【結果】

「札幌」「その他の道内」と答えた方が4名と多く、次いで「道外」が2名という結果となった。

選択肢	人数	割合
全体	12	100
泊村以外の岩宇	1	8.3
岩宇以外の後志管内	1	8.3
札幌	4	33.3
その他の道内	4	33.3
道外	2	16.7
その他	-	-



問2. 問1で「ずっと泊村で暮らしたい」「村外で暮らしたい」「どちらともいえない」と答えた理由を詳しく教えてください(自由に記入してください)。

【結果】

「ずっと泊村で暮らしたい」と答えた方の主な理由としては、昔からの友人と楽しく過ごしたいという意見があがった。

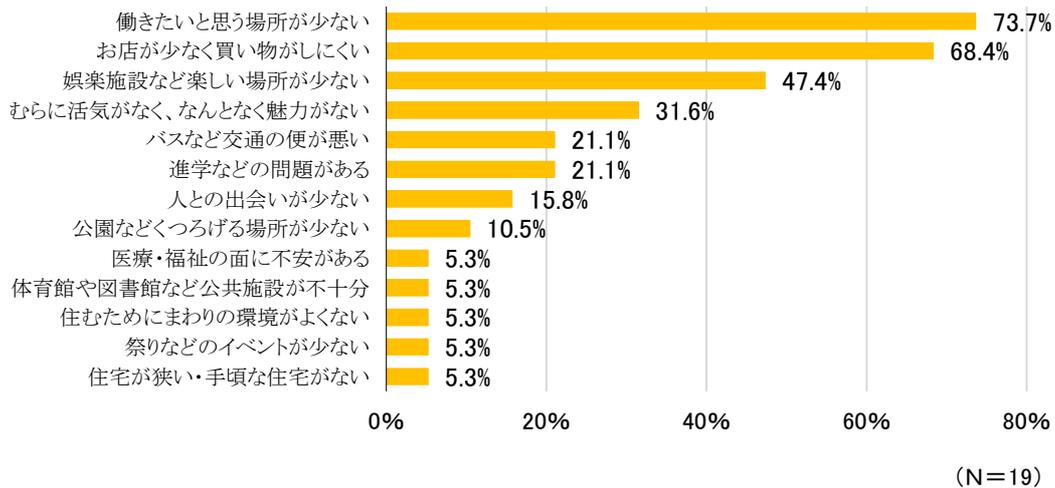
一方、「村外で暮らしたい」と答えた方の主な理由としては、働く場所がないなどの雇用面の不安や交通が不便・買い物できる場所が少ないなど生活面での利便性の欠如があげられた。

選択肢	理由
「ずっと暮らしたい」	楽しいから。
	落ち着くから。いつものメンバーで楽しく過ごしたい。
「村外で暮らしたい」	泊村に定住したいと思える理由が現時点で見つからないから。
	仕事が無く、周りと比べてメリットも無いから。
	やりたい事があるから。
	買い物や娯楽施設が少ないから。交通の便が不便だから。働く場所が少ない。
	職業につける仕事は、泊村は少ないから。
	自立して生活してみたいから。
	人がたくさんいる場所や、こちら辺にないお店とかに行ってみたいから。
	都会に出たい。
	泊村は何も無いから。色々ある所に住みたいと思ったから。
	交通網の手段が少ないから。買い物に困るから。
「どちらともいえない」	将来、どんな仕事をするか分からないから。
	泊村にいてもやりたい事が出来なさそうだから。

問3. 今後も泊村に住み続けるとしたとき、不満や不便を感じるものは何ですか？あてはまる番号に3つ〇をつけてください。

【結果】

「働きたいと思う場所が少ない」が7割強と最も多く、次いで「お店が少なく買い物がしにくい」が7割弱という結果となった。他にも「娯楽施設など楽しい場所が少ない」や「むらに活気がなく、なんとなく魅力がない」が多い結果となった。

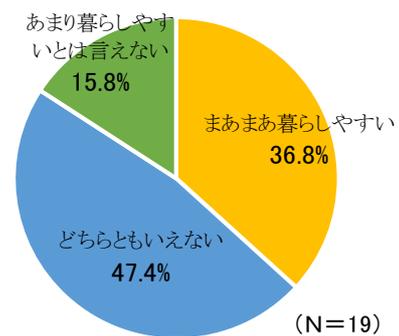


問4. あなたにとって、泊村は暮らしやすいむらですか？あてはまるものに1つ〇をつけてください。

【結果】

「どちらともいえない」が9人と最も多く、次いで「まあまあ暮らしやすい」が7人という結果となった。

選択肢	人数	割合
全体	19	100
暮らしやすい	-	-
まあまあ暮らしやすい	7	36.8
どちらともいえない	9	47.4
あまり暮らしやすいとは言えない	3	15.8
暮らしにくい	-	-



問5. 泊村に住んでいない友達が訪ねてきた場合、あなたなら泊村のどんなところ(どんなもの)を自慢(紹介)しますか？

【結果】

以下のような結果となった。

施設面では、とまりん館やとまりんクなどの意見が出た。景観面では、海がきれい、自然がたくさんある、夕日がきれいなどの意見が出た。その他、漁業が盛んや祭りが多などの意見も出た。

分類	内容
施設	とまりん館
	とまりんク
	村外の人でもスケートやバドミントン、卓球が出来る
景観	海が近い
	海がきれい
	自然
	夕日などの景色
	マウンテンゴリラ
産業	漁業が盛ん
	原子力発電所がある
むら	夜とても静か
	祭りが多い
	事件が少ない
	平安荘の料理

問6. 泊村のむらに簡単なキャッチフレーズをつけるとしたら、どんなものが考えられますか？自由に記入してください。

【結果】

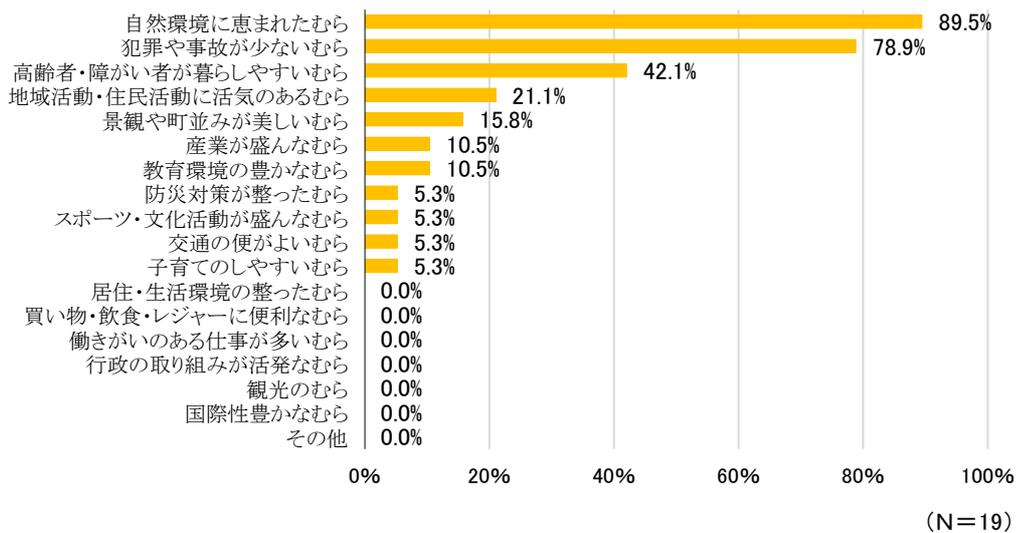
地域資源である海や自然などに関するキャッチフレーズが多く出た。詳細は右部の通りである。

自由記入
海のまち
宝の持ち腐れ泊村
年中敬老の日泊村
自然豊か
自然は大事
海がきれい泊村
笑顔あふれる泊の村
海産物がおいしい村
夕日のまち

問7. 現在の泊村のイメージはなんだと思いますか？あてはまる番号を3つ選んで○をつけてください。

【結果】

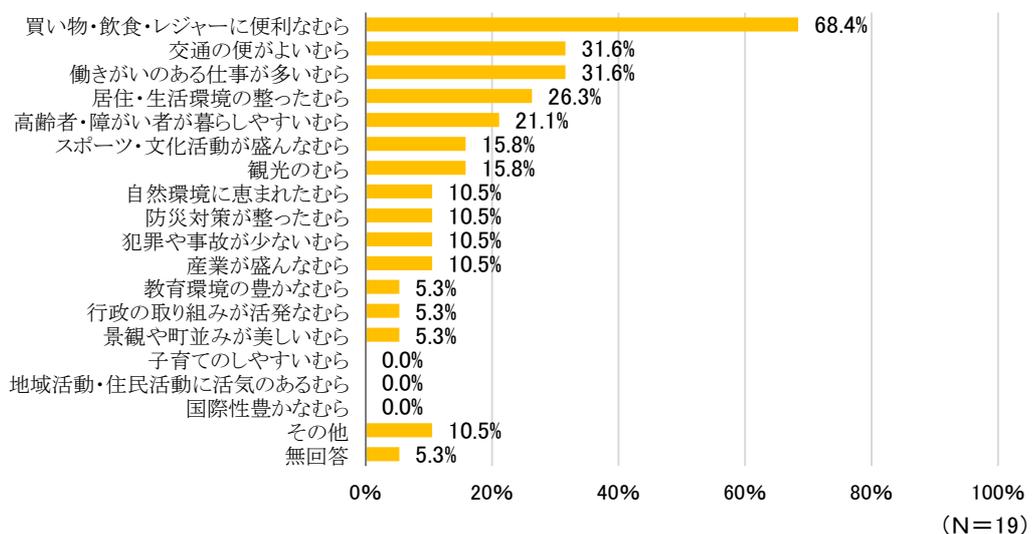
「自然環境に恵まれたむら」が約9割と最も多い結果となった。次いで、「犯罪や事故が少ないむら」が約8割という結果となった。その他、「高齢者・障がい者が暮らしやすいむら」「地域活動・住民活動に活気のあるむら」も多い結果となった。



問8. 10年後、泊村がどんなむらになったらいいと思いますか？あてはまる番号を3つ選んで○をつけてください。

【結果】

「買い物・飲食・レジャーに便利なむら」が約7割と最も多い結果となった。次いで、「交通の便がよいむら」、「働きがいのある仕事が多いむら」が約3割という結果となった。



3. アンケートからの考察

●住み心地が良く、定住率が高い

泊村の居住者は70代以上、60代、50代が半数以上を占めており、居住年数も20年以上が6割強であった。住み心地については、「どちらかというに住みやすい」が3割強で、「住みやすい」と合わせると全体の約5割という結果であり、「今後も泊村に住み続けたい」という意見が5割弱と半数以上であった。

このことから、泊村は住み心地が良く、定住率が高いと考えられる。

また、その理由としては「自然環境に恵まれている」や「治安がいい」が出ており、今後も環境保全への施策や治安維持対策を推進していく必要があると考えられる。

●日常生活の利便性に欠ける

泊村の住み心地がいいという意見が多い一方、住みにくい理由としては、「買い物が不便」「交通が不便」という意見が多く出ている。今後、他町村に移りたい理由も「買い物が不便」が最も多い結果であった。

さらに、中学生へのアンケートで、10年後は買い物・飲食・レジャーに便利な村になってほしいという意見が多かったことから、買い物をする場所や交通の便など日常生活における不便さを解消していくことが必要であると考えられる。

●観光の振興や商工業の振興を促進する

これまでのむらづくりに関して各項目への評価は「変わらない」が多数を占めていたが、下水道などの施設の整備やごみ収集、リサイクル、環境保全の取り組みに対しては「よくなった」という評価が多かった。

一方、商工業の振興、歴史文化財の保全と活用に対しては低い評価であった。

企業アンケートでも、むらづくりの取り組みで特に不満に思うものとして観光の振興があげられており、歴史文化財を活用し観光の振興につなげる施策や、地域ブランドの創造などによる商工業の振興が重要であると考えられる。

●各世代にあわせたむらづくりの基盤整備が必要

これからの基盤整備として必要なことでは、各世代によって意見が分かれた。10代、20代、30代、40代は共通して「家族連れで楽しめる身近な公園や遊歩道などの整備」という意見が多く、50代、60代、70代以上は、「村内コミュニティバスなどの運行」という意見が出た。

このことから、各世代から出される要望に対して施策を検討していく必要がある。

●医療の充実は今世代共通の要望

健康と福祉の村づくりとして必要なことは、10代、20代、30代、40代は「子育て支援の充実」という意見が多く、50代、70代は「高齢者や障がい者福祉の充実」という意見が多く見られた。

全世代共通して「医療の充実」は上位を占めており、医療体制の確立は重点的に対策をする必要があると考えられる。

●地域の情報を伝える手段は広報誌が最適である

広報誌を毎月読んでいる方は約 7 割と多く、泊村のホームページを見る頻度は年に数回が約 3 割と少ない結果となっている。

このことから、村民向けのむらづくりや地域の情報を伝える手段は広報誌が最適であると考えられる。

●移住・定住促進のために必要な施策は雇用機会の充実

今後、泊村へ移住・定住を促進するためには「村内で働ける場を増やす」という意見が最も多く、中学生へのアンケートでも、今度泊村に住み続けるとしたとき不満や不便を感じるものとして「働きたいと思う場所が少ない」という意見が多く出た。

このことから、雇用機会の充実に向けた対策は重点的に取り組みをする必要があると考えられる。